

【授業科目】臨床化学検査学実習Ⅰ Clinical training of Laboratory Clinical Chemistry I

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
森本 誠	2年次後期	必修	1	30	実習	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>授業概要／生物化学検査は診断や治療を目的として病院の臨床検査として高頻度に利用され、さらに予防医学に対しても重要な検査項目が多い。まず、臨床化学検査学Ⅰの知識を基に血清成分の変化が病態に關与する関係を他の検査項目との関連性を含めて理解させる。生理的意義、臨床的意義、測定法の理論を中心にさらに理解を深め、検査値の読み取り (R-CPC) も取り入れ、疾患とのかかわりを重点的に学ぶ。また生活習慣病 (糖尿病) の診断に役立つ機能検査など、新規ホルモンと疾患との関連も教授する。*実務経験を持つ教員が授業を進める。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／提出されたレポートにコメントをつけて返却する。提出された課題について、全体の総評コメントを掲示にて公開する</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>①各検査項目の測定法、原理を説明できる。 ②検体の保存方法、各検査項目の影響物質について説明できる。 ③ホルモン、機能検査の内容を理解し、説明できる。 ④検査項目から疾患を読み取ることができる。</p>							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>臨床化学検査学Ⅰでの内容をよく理解し、発展させる。特に疾患を読み取る力を養ってほしい。他の専門科目で学修する検査値との関連も説明できるよう努力してほしい。</p> <p>第1回～15回事前学修：指定の教科書を事前に読んでおく (各30分) 第1回～15回 事後学修：各回での学びを復習することで確認し、解らなかつたことは調べ教員に質問する (各30分) ※その他に、講義で学んだことを振り返るための課題を課すことがある (各60分)。 上記例は、1単位15回科目の場合で、予習+復習に必要な時間は、1時間/1回となる。</p> <p>※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間 (2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回) (1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回) (1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回) を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1・2回 血中グルコースの測定 (GOD-POD法、HK-G6PD法、電極法)、検査法と臨床的意義。症例検討</p> <p>第3・4回 血中酵素活性 (AST, ALT) の測定 (POP-TOOS法)、検査法と臨床的意義。症例検討</p> <p>第5・6回 血中脂質 (TG, T-Cho, HDL-Cho) の測定、(GK-PK-LD法、COD-POD法)、検査法と臨床的意義。症例検討</p> <p>第7・8回 血中ビリルビン測定 (バナジン酸酸化法)、検査法と臨床的意義。症例検討</p> <p>第9・10回 血中クレアチニン (jaffe法)、血中尿素窒素 (ウレアーゼインドフェノール法) 測定、検査と臨床的意義。症例検討</p> <p>第11・12回 採血シュミレータを使った採血手技</p> <p>第13・14回 機能検査1、機能検査の目的、肝 (胆道) 機能検査、腎機能検査、糸球体機能検査など</p> <p>第15回 機能検査2、膵機能検査、内分泌・外分泌機能検査など</p>							<p>全て森本</p>
評価方法 評価基準	<p>成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 講義ごとのレポート 50%、学期末試験 50%</p>							
教科書	メディカルサイエンス『臨床化学検査学』近代出版			参考書等		なし		
学生へのメッセージ	<p>各講義に使うプリントをよく勉強し、検査データの意味を正確に把握することを目的とし、勉強して欲しい。</p>							